

コロナの影響でWSはできなかったが、スタッフのスキルアップ研修とレシピブックができた おやつさん

活動の目的

アレルギーの有無や、経済上の理由などに左右されることなく、学童保育に預けられている子どもたちが愛情こもった手作りおやつと一緒に食べ、楽しい記憶と共に成長する場を作ることで、一体感や、郷土への愛着を形成。また市販のお菓子とは異なる価値観、新しいものや見たことのないものへの理解や受け入れの土壌を育むことに繋がる（移住者の受け入れや異文化を受け入れる力を育む）ことを目的として活動している。食育を通じ、子どもたちが自分の力で生きる自信をつけ、移住者にとっては移住先での不安や子育てを話し合える場づくり、となるよう活動しており、スタッフ全員が移住者である。今年度は子ども向けワークショップを重ねて、より地域と子どもたちに食の楽しさを伝え、また移住者との交流を図る予定であった。

活動の内容及び経過

4月は学校休校に伴い、学童クラブへくる子どもたちも大幅に減ってしまった。活動場所であった公民館は閉鎖になったため、おやつさんの活動も停止していたが、自宅で一人ぼっちで一日過ごしている子どもの話をきき、自宅でも学童でも今までと同じようにみんなでおなじおやつを、とスタッフ数名が自宅で作り、ラッピングしたものにメッセージを添えたりしてお休みしている子どもたちと学童に配布、納品をした。

子ども向けのwsは全て開催を見合わせることにし、代わりに、3月11日、元レストランシェフである移住者の方を講師にお呼びしスタッフのスキルアップ講座を開催した。今までうまくいかなかったレシピの相談や、普段知ることのできないプロの技に各自モチベーションを高めることができた。

また日頃より子どもたちからレシピを教えてというリクエストがある人気メニューを中心にレシピブックを作成することにし、現在作成中。

活動の成果・効果

コロナ禍で学童をおやすみする子ども、家で一人でおやつを食べる子ども向けに、持ち帰りおやつを提供を行い好評だった。学童でも小包装にすることで安心しておやつを受け取ることができ、一人じゃないよというメッセージを発信できた。

スタッフ向けに行ったスキルアップ講習会では、講習後も、各自が自宅で教わった様々なことに挑戦し交流が深まった。311の日に集い、過ごし、語り合えたことも大きな支えとなった。また今までうまくいかなかったレシピにいた



講師の大谷さん夫婦



ミニホットドック



スフレチーズ



3色団子

だいたアドバイスを元に、作ったおやつが好評だった。

作成中のおやつレシピブックは学童の保護者中心に配布予定。子どもたちにより、毎回、作り方教えて！と声のかかる人気レシピ中心に、栄養士さんによるコメントなども盛り込む予定。

今後の課題と問題点

コロナ禍でのおやつを提供をどのようにすべきか、継続の方法を模索する必要がある。

ワークショップや食育などのあり方で、おやつをどのように提供することが良いか学童、スタッフと打ち合わせの機会を設けたい。

コロナで公民館が閉鎖されると活動も中止になってしまう。

- 代表者：大西愛
- TEL：070-5023-1214
- URL：<https://www.facebook.com/oyatsusun>
- 設立年：2019年 ●メンバー数：5名